

セッション名：サテライトシンポジウム第2回アブレーション・デバイスサミット
第2部 デバイス治療最前線

座長：松本 万夫（埼玉医科大学国際医療センター心臓内科）
今井 克彦（広島大学心臓血管外科）

医学の技術は急速に進歩している。様々なデバイスが世界の各地で発明・開発・実用化されている。その中には極めて有用なものもあれば、そうでないものもある。我々は適宜、取捨選択して自分たちの患者さんのために応用していかなければならない。少なくとも他の国で通常で使用され、有用であることがわかっているにもかかわらず本邦で使用できずに、“あの治療法があれば死ななくて済んだのに……”という後悔があってはならない。また、使用して逆に患者さんの不幸になってはならない。今回、本邦でようやく使用可能となる心臓突然死に対するデバイスである皮下植込 ICD を栗田隆志先生、Wearable Cardioverter Defibrillator について実経験豊富な Mina Chung 先生に、新たな考え方に基づく心不全治療法について奥山裕司先生にそれぞれそのコンセプトと実際についてご報告していただく。はたして、これらは患者さんのためになるのか？ 本当に必要なものなのか？ どれだけ期待ができるのか？ 本セッションにはこのような先進医療の最新情報が盛り込まれている。青森の黄昏のひと時を心電学会のみなさんと最新の治療法について語りあうことができるのを楽しみにしている。多くの皆様のご参集をお待ちしている。